市政について問う！

一般質問

【代表質問】

第十二回（二月）定例会では、市長の平成二十六年度施政方針に対する代表質問が行われ、七つの会派から質問がありました。

市民クラブ　鈴木　秀郷

公共交通の利便性向上は

問 高齢化が進み、自家用車を利用できなくなる人口の増大が見込まれる中、本市における公共交通の確保と充実のための施策は。

答 市長／公共交通のうち、バス利用者は年々減少傾向にあり、バス交通の持続が難しい状況にある中、本市では運行事業者と連携を図り、住民生活の実情に即した運行ルートやダイヤの再編を行うとともに、採算性、効率化を視野に入れたデマンド方式のタクシーの運行を取り入れるなど、公共交通の利便性向上に取り組んできた。また、運行事業者の独自の利用者サービスとして、一乗車百円で利用できる高齢者向け割引定期券「楽々パス」や、通勤定期を所持している本人の家族が、土・日曜日及び祝休日、一定の路線に限り、一乗車百円で利用できる「環境定期券」も実施されており、市としても周知、普及を進めている。今後においても、住民ニーズを把握した上で、運行事業者とともに市民が利用しやすい、公共交通体系を研究していく。

▲戸田・西浦地区デマンドタクシー（ふじみgo！）

自民沼津　植松　恭一

躍動感あるまちづくりを

問 施政方針の中で、「これまでの規制にとらわれない柔軟な発想でまちづくりに取り組み、停滞感を打破する躍動感あるまちづくりを目指す」とあるが、これまでの規制にとらわれない具体的な取り組みとは。

答 市長／これまでの規制にとらわれないまちづくりの具体的な取り組みとして、市立病院東側の土地利用に代表される市街化調整区域の土地利用について、これまでの開発抑制という考え方から一歩踏み込んだ、法律の許す範囲で開発の可能性を探っていくという方針に基づき、今後、交通環境が向上し、新たな土地利用が見込まれる地区などについては、関係法令に対する規制緩和等の動向を注視しながら、効果的な土地利用を推進していく。また、市民協働のまちづくりの観点から、民間活力のさらなる導入も不可欠と考え、中央公園や狩野川の河川敷及び水面の活用などについて、民間の知恵を取り入れ、柔軟な発想でまちづくりを推進していく。

▲狩野川水面活用の一例（カヤック体験）

未来の風　江本　浩二

消防団員の確保対策は

問 消防団員の減少などにより、地域における防災力の低下が懸念されている中で、①平成二十五年十一月八日付の消防団員確保に係る総務大臣書簡にある「市職員がみずから率先して、消防団に参加するよう、市にはその促進を図ってもらいたい」という、直接要求に対する考えは。また、新規採用職員の現場研修として、期限を区切り入団してもらうことについての考えは。②女性消防団員が地域の各分団へ入団することについての考えは。

答 市長／①本市の消防団には現在四十二人の公務員が在籍し、そのうち十七人が本市の職員となっている。職員研修として、命令で入団させることについては、適切ではないと考えるが、市職員が消防団へ入団することは非常に望ましいと考えており、文書等での入団促進の呼びかけについて検討したい。②現在、女性消防団員については、団本部付の女性消防団紫明隊として、防火広報や応急手当て講習、住宅防火診断などの後方支援に当たっている。しかし、今後、女性消防団員が地域の各分団において、現場の第一線で働くことも想定し、詰所の整備などを含め調査・研究していく。